

指定名	教育課程研究開発校（新科目公共）	学校名	瀬谷西高等学校
題名	新科目「公共」における授業展開のイメージと課題		

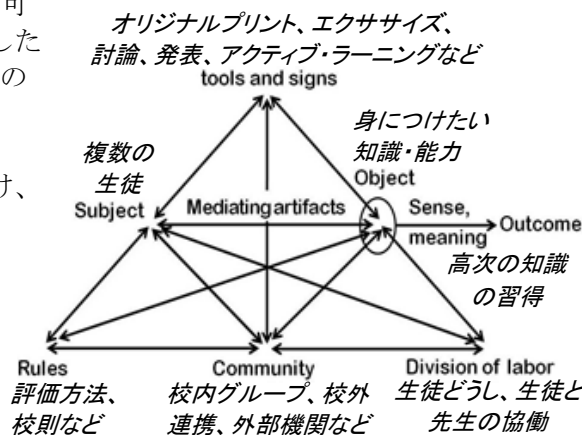
(1) 研究の概要

エンゲストローム (Yrjö Engeström) の「活動理論 (activity theory)」を援用しながら、新科目「公共」の新しい授業モデルを構築する。特に、「越境 (boundary crossing)」の概念に鑑みながら、モデル化を行った。「越境」とは既存の境界を横切る水平的な運動を意味する。右下の図に示す授業モデルをつくり、公民科「現代社会」の中で、「公共」に接続可能なところを選んで検証授業を実施した。これを検証したところ、キャリア教育の観点に立った授業は、「公共」の学習レディネスを高めることがわかった。

(2) 検証授業のねらい

検証授業を企画するにあたって、次の3つの柱を設け、研究のねらいとした。

- ① キャリア教育の観点に立った授業
- ② アクティブ・ラーニング (active learning)
- ③ 先生どうしの協働 (collaboration)



1つ目のキャリア教育の観点に立った授業というのは、生徒がこの学びが将来に役立つと思える、この学習に関係する分野への進学を考える、この学習を通じて基礎科目の重要さがわかるという授業経営をめざすものである。2つ目のアクティブ・ラーニングについては、「公共」において重視される思考力、判断力、表現力等の一つである「現実社会の諸課題について、解決に向けて協働的に考察する力」を身につけさせるためのツールとして活用した。検証授業では、この目的を達成するにふさわしいジグソー・メソッド (jigsaw method) を取り入れた。3つ目の先生どうしの協働については、若手の先生 (女性) と経験年数の長い先生 (男性) による授業づくりを試みた。個性・専門性・経験年数など異なる部分をもつ先生どうしが水平的な分業を行うことによって、新たな地平を切り拓くことができると考えるからである。

(3) 検証授業の実際

検証授業は、1年生5クラスを対象に、「基本的人権と公共の福祉」の単元で実施した。ジグソー・メソッドにしたがい、普天間基地のあり方について、5つの立場からグループをつくる。A日本政府、B環境保護団体、C沖縄に暮らす基地反対派の住民、D沖縄に暮らす基地容認派の住民、E神奈川県民の5グループ (エキスパートグループ) である。それぞれの立場にかかわる資料を読解した後、普天間基地をどうしたらよいかをグループで考え、主張をまとめる。次に、このグループを解体し、異なった立場の人びとで新しいグループ (ジグソーグループ) つくる。グループ内で、異なる立場や考え方を踏まえて、今後の方針について話し合い、グループの代表者が結論を発表する。公共の福祉の定義を再確認した後、各グループから出た意見を活用することで理解を促す。以上が検証授業の流れである。

(4) 本研究の検証と課題

検証授業後、「公共」の学習レディネスにかかわる3項目とキャリア教育にかかわる3項目について、ふり返りアンケートを実施した。グループ活動 (協働) については、約9割の生徒が肯定的であった。授業で学んだことが今後役立つと思う生徒は9割を越えており、基礎科目を学ぶ意義を認める生徒も高い比率にあった。また、2×2独立検定を行ったところ、キャリア教育の視点で授業づくりをすすめると、「公共」の学習にもよい影響をもたらすことがわかった。特に、自分からすすんで調べたり、また、調べたことを活用して次のステップにすすもうという意欲を高めるためには、授業を通じて、この学習が今後の人生に役に立つと感じたり、将来のキャリア設計にかかわる意識をもてることが重要であることがわかった。

今回の検証授業では、Rules (規則) や Community (共同体) に対するアプローチは見送られた。これは校則や評価方法など、一授業、一個人では改善できない成分だからである。また、tools and signs (道具・記号) にしても、物理的にも心理的にも、これを使える環境がなければ実施できないことがわかった。the hidden curriculum (隠されたカリキュラム) のもつ影響の大きさも看過できないこともわかった。今後の研究の成否は、この点にかかっているのではないかと考えている。